

指定管理者制度導入施設の将来ビジョン

施設名	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館
所在地	杵築市山香町大字日指1番地
県の所管部局(課・室)	農林水産部 地域農業振興課
設置年月日	平成13年4月21日(設置から19年11か月) ※令和3年4月1日現在
設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら、農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。
指定管理期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日

【検討結果】

施設の今後のあり方

存続 (利活用)	存続 (整理統合)	廃止
理由	<p>①子育て世代中心に多くの県民に利用されている 平成13年のオープン以来、延べ513万人が利用(年平均:約27万人)</p> <p>②79%が存続を希望(R2マーケットニーズ調査)</p> <p>(補足) (1)農業、農村の文化等を学習する施設、都市と農村との交流を図る施設としてオープンしたが、近年の利用者アンケートやマーケットニーズ調査によると、自然観察、健康増進、イベント参加等へのニーズが高い</p> <p>(2)外部有識者検討委員会も通じて、利用者ニーズに沿ったコンセプトや、取組、名称を検討し、令和3年度に見直し方針を決定予定</p> <p>(1)の新規ニーズに応える形で、(2)の取組変更等を検討・実施することで更に幅広い来園者の増加が見込まれる</p>	
管理方法の検討(存続の場合)	<p>以下により、今後も「指定管理者制度」を継続</p> <p>①広大な敷地面積を有しており、園内の草刈り、樹木植栽整備をはじめ、直営では施設管理が難しい</p> <p>②四季ごとのイベント開催や収穫体験など、民間のノウハウを活用していくメリット、必要性が大きい</p> <p>※公募の際、現指定管理者のみの応募が2期続いているため、競争性や独自性を担保するためにも、公募期間や条件といった公募手法の工夫をより一層行っていく必要がある</p> <p>※外部有識者検討委員会を通じて、ダウンサイジング等、指定管理区域の見直しや再委託など管理方法の変更に ついても、必要に応じて検討する</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年度～平成17年度 管理委託契約 ・平成18年度～指定管理者制度 ・「研修館」は、「農業文化公園」敷地内にあるため、より効率的・効果的な管理運営を図る目的で、2施設を一体的に管理 	

ビジョンの設定期間

ビジョンの設定期間	令和3年度～令和12年度
次回策定(中間見直し)	令和5年度
次回指定管理者公募予定	令和7年7月

存続の場合

1. 目指すべき施設像及び利用者像等

<p>施設像</p> <p>※外部有識者 検討委員会で R3.5月に決定 予定</p>	<p>①広大な自然とふれあい、安らぎをあたえる空間</p> <p>→ ・ 四季折々の自然の美しさを生かし、各種イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none">・ テーマを決めたゾーニングなど計画的な緑化事業の推進・ SNS映えする見所スポットの整備・ 広大な園内を楽に移動できる自転車やトラムカーの整備・ 園内産・県内産を用いた料理及び加工品等の提供充実・ 野菜、果樹、花、園芸などの技術習得・体験型講座の充実 <p>②子どもたちがのびのび遊べ、大人も気軽に楽しめる場</p> <p>→ ・ 子どもが遊べる広場、大型遊具等の維持管理と、雨の日でも楽しめるイベントや遊具の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・ 宿泊施設(コテージ、キャンプ場など)の維持拡充・ 景観を活かしたウォーキングコースの整備・ ノウハウを持った企業と連携したイベントや、広大なダム湖を活用した取り組みの強化・ 試験研究機関や大学、企業などと連携した最新技術の実証展示・ アウトドア教室や、広大な敷地を生かした体験・取組の拡充
<p>利用者像</p> <p>※外部有識者 検討委員会で R3.5月に決定 予定</p>	<p>①ファミリー層</p> <p>→ 広場や大型遊具等の利用、入園者の中心、土日祝日の利用が多い</p> <p>【参考】利用者アンケート(R1実施) 30代:20%、40代:19%、家族利用:92%</p> <p>②シニア層</p> <p>→ 四季の花イベント等の利用、ウォーキング等健康ニーズの高まり、平日利用が多い</p> <p>【参考】利用者アンケート(R1実施) 60代以上:21%</p> <p>③若年層</p> <p>→ キャンプ場利用やSNS映えスポット利用、アウトドアイベントへの関心が高い</p> <p>【参考】利用者アンケート(R1実施) 10代~20代:15%</p> <p>④団体</p> <p>→ 企業の福利厚生利用、学校・保育園・福祉施設等の遠足利用、観光ツアー客の立ち寄り利用</p> <p>【参考】利用者アンケート(R1実施) 会社・グループ:2%</p>

<p>定量的 目標達成指標</p> <p>※外部有識者 検討委員会で R3.5月に決定 予定</p>	①	年間利用者数	<p>ア 大分農業文化公園 令和3年度 310,000人/年 令和4年度 320,000人/年 令和5年度～令和12年度 330,000人/年</p> <p>イ 大分県都市農村交流研修館 令和3年度 30,500人/年 令和4年度 31,000人/年 令和5年度～令和12年度 31,500人/年</p> <p>※令和3年度～令和7年度については、指定管理者公募条件として公表済み(令和2年7月)</p>
	②	利用者満足度	<p>ア 大分農業文化公園 令和3年度 80% 令和4年度 82% 令和5年度～令和12年度 84%</p> <p>イ 大分県都市農村交流研修館 令和3年度～令和12年度 94%</p> <p>※令和3年度～令和7年度については、指定管理者公募条件として公表済み(令和2年7月)</p>
<p>定性的 目標達成指標</p> <p>※外部有識者 検討委員会で R3.5月に決定 予定</p>	①	四季を通じた花のイベントが開催できる環境整備	
	②	キャンプやアウトドアを学べ楽しめる施設としての知名度の向上	
	③	ウォーキングコース整備や、自転車、ボート等の充実	
	④	園内産や地元食材を利用した料理等を提供できる体制を整備し、食の面でも楽しめる仕組み作り	
	⑤	「農業」に限定されたイメージからの脱却	

2. 目指すべき像を達成するための課題とその解決策、実施方法・実施時期（解決への優先順に記載）

課題1	人口減少・少子高齢化に関する課題		
	<p>(1)人口減少・少子高齢化による利用者減 利用者アンケート(R1実施)によると、入園者の年代は30代が20%で最も多く、次いで40代が19%、家族割合は92%と、ファミリー層が利用者の中心。現状では人口減少・少子高齢化により、大幅な利用者の減少が予想される。</p>		
解決策	<p>①若者やシニアなど幅広い年齢層の利用増加を図る仕組みづくり</p> <p>②公園を訪れたことがない者や幅広い地域から来園者を呼び込むための周知活動等の強化</p>		
実施方法・実施時期	<p>①・四季ごとに花や紅葉が楽しめる見所づくりの推進（通年） ・SNS映えするスポットの整備（通年） ・キャンプ等アウトドア需要対応強化（通年） ・健康増進のためのウォーキングコースの整備等（通年）</p> <p>②・大分市から北九州市までの東九州自動車道沿線地域に対して集中的な周知宣伝（通年） ・近隣の観光地と連携した誘客、国内及び海外からのツアーへの売り込み（通年） ・農業に限定されたイメージから離れた、新たなコンセプトに基づく名称変更（令和3年度～令和4年度）</p>		

(参考)	令和元年度(2019年度)	令和12年度(2030年度)	令和27年度(2045年度)
予測利用者数(人)	293,713	276,464	245,222
直近年度比		94.13%	83.49%

課題2	施設管理に関する課題（農業文化公園）
<p>(1)施設の老朽化 ・開園後20年が経過し、大型遊具やメイン施設(事務室、物産館、花昆虫館、レストラン館、研修館)等の改修が必要となっている</p> <p>(2)利用者の少ない施設及びエリアの整理 ・レストラン館(市所有施設)は休止中で、花昆虫館、風のリズム広場等は利用者が少ない</p> <p>(3)設置目的と利用実態とのずれ ・利用者の多くは農業、農村の文化等を学習する施設としてではなく、自然観察、健康増進、イベント参加等で利用</p>	
解決策	<p>①施設の計画的な補修とリニューアル 大型遊具やメイン施設の不良箇所の補修、利用者の少ない施設及びエリアのリニューアル</p> <p>②設置目的の見直し ニーズの変化に対応した設置目的の見直し</p>
実施方法・実施時期	<p>①計画的な施設の補修及び、ノウハウを持った専門企業と連携した施設やエリアの利用の見直しや、ダウンサイジングも含めた管理エリアの見直しを検討（補修は通年）（エリア見直し等は、令和3年度～令和5年度）</p> <p>②自然や四季折々のイベント、食やアウトドアを目的に訪れ、農業にもふれあえる公園づくりに設置目的の変更を検討（令和3年度～令和4年度）</p>

課題3	施設管理に関する課題（都市農村交流研修館）
<p>(1)ニーズへの対応 ・時代の変化に伴い社会的関心が高くなっている内容への対応ができていない</p> <p>(2)稼働率の低さ ・農村女性の高齢化などから研修館へのニーズが減少し、近年の稼働率(R1)は47.9%と低迷している</p>	
解決策	<p>①ニーズ調査により、どのような研修が求められているのかを把握し、内容のリニューアルを行う</p> <p>②企業や団体への働きかけなどにより、研修以外の利用促進を図る</p>
実施方法・実施時期	<p>①ニーズ調査結果を踏まえ、アウトドア教室やシニア層を対象とした園芸講座等を実施する（通年）</p> <p>【参考】マーケットニーズ調査（R2） 受講してみたい研修：アウトドア関係 30.7%、 園芸講座：25.9%（60代以上 49.2%）</p> <p>②東九州自動車道沿線地域に対して集中的に周知宣伝を行い、県北地域と北九州市については、個別に企業訪問を行い、周知を図るとともに、農業体験研修などでの活用を働きかける（通年）</p>

課題4	新たなニーズへの対応に関する課題
<p>(1)新たなニーズへの対応強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は、体験や研修については、収穫体験など農業関係がメイン ・アウトドアや健康ニーズの高まりに対応できていない <p>【参考】マーケットニーズ調査(R2) 公園に求めるもの:アウトドア環境の充実 25.8%、運動できる環境:22.6%</p>	
解決策	<p>①自然体験の充実 キャンプ場の拡充、アウトドア教室、天体観測会 等</p> <p>②健康ニーズへの対応 ウォーキング大会、大人も楽しめるアスレチック 等</p>
実施方法・実施時期	<p>①グラウンドを改修し、フリーサイトキャンプ場を新たに開設(令和3年度) ノウハウを持った専門企業と連携し、初心者キャンプ講座や星空教室等の開催(令和3年度～)</p> <p>②ウォーキングコースの整備、足こぎボートや自転車の拡充(令和3年度～令和7年度) 健康アプリ「おおいた歩得」(ユーザー数 約5万人)との連携(令和2年度) 大人も楽しめるアスレチックやジップライン、カヤック等ダム湖を活用したアクティビティ等、専門業者と連携して導入を検討(令和3年度～令和6年度)</p>

課題5	飲食や物販の充実に関する課題
<p>(1)施設での飲食、物販が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開園当初は多くの箇所が多岐にわたる飲食の提供が行われていた ・採算が取れないことから、現状ではレストラン等は休止中で、豊の国物産館で軽食の提供のみ ・イベント等は、外部事業者により屋外テントで県産食材料理を提供 <p>【参考】マーケットニーズ調査(R2実施) 公園に求めるもの:飲食の充実 42.7%</p>	
解決策	<p>①県産・園内産食材を利用したオリジナルメニューの強化</p> <p>②生産者や加工事業者との連携によるPRイベントの実施</p> <p>③宿泊者・デイキャンプへのバーベキュー等食材の提供</p>
実施方法・実施時期	<p>①ソフトクリーム、カレー以外にも県産・園内産食材を利用したオリジナルメニューの提供 休止中のレストラン等の再開協議(令和3年度)</p> <p>②飲食の専門業者と連携した、大分の食文化を発信するフードコートを設置(令和3年度～令和5年度)</p> <p>③地元量販店等と連携した、和牛など大分ブランド食材の提供(令和3年度～)</p>